



主なご質問とご回答

株式会社静岡銀行

〒420-8760 静岡市葵区呉服町1-10
TEL.054-261-3131 FAX.054-344-0131
<http://www.shizuokabank.co.jp/>

2017 年 11 月 20 日の決算発表以降いただいた主なご質問とご回答は以下の通りです。

Q1	現在開発を進めている次世代システムに関する経費負担の増加はどの程度か また、期待される効果は何か
A1	300 億円程度の投資規模であり、2019 年度にシステム関連経費は 200 億円を上回る見通し。ただし、新システムではオープン化や開発の軽量化によるシステム開発費用の削減などによりシステム関連経費は年間 30 億円程削減され、将来は 100 億円を下回る水準へ引き下げる。また、今後、このシステムをデファクトスタンダード化し、例えば事務処理のやり方も含め、当行が他の金融機関にコンサルティングしていけるのではないかと考えており、色々と可能性は広がっている
Q2	有価証券ポートフォリオの再構築の状況は
A2	2016 年下半期の米国金利上昇後、米ドル債残高を減少させ、2017 年度上半期は市場動向を慎重に見極めながら外債を中心に残高を積み上げ、2017 年 9 月末に 1 兆 5,759 億円と前年度末比+2,105 億円増加した。 米国金利の利上げ局面であるが、タイミングを捉えて投資を慎重に行っており、評価損益も悪化していない。
Q3	貸倒引当金戻入益の発生した理由
A3	一般貸倒引当金は貸倒実績率による方法と、一部大口先に対して DCF による方法があり、予防的に貸倒引当を行っている。このうち、貸倒実績率による方法は「残高×貸倒実績率×平均残存期間」で計算しているが、消費者ローン先についてシステム整備、データ蓄積を進めたことで消費者ローンの平均残存期間に見合う、精緻な引当金の算定が可能となった 2017 年度上半期では、この算定方法の変更に伴い、▲60 億円の戻入が発生。また、貸倒実績率の低下等の影響を含め、全体では▲89 億円の戻入となった。会計処理上、個別貸倒引当金繰入額 22 億円とネットした 68 億円を貸倒引当金戻入益として計上した

以上

SHIZU-GIN